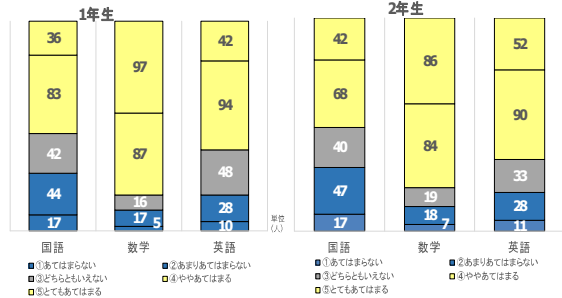


**英・数・国 学習実態調査の結果報告（1学期末 実施分）**

**英・数・国 学習実態調査（1学期末）**

国語・数学・英語の各教科について、あなたが日頃の学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを回答してください。  
 Q22-24 理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決するようにしている

・協同的な学びに関わる項目  
 ・両学年ともに数学はよい傾向にあるが、他教科への広がり、さらに深い学びへつなげていくことが求められる。



1学期末に、本校の教育課程実践モデル事業の測定評価のために、スタディーサポート（ベネッセコーポレーション）の質問項目を参考にしながら、国語・数学・英語の各教科について、生徒が日頃の学習で心がけていることなどのアンケートを作成し、調査した。その主な質問項目と簡易分析は下の通りである。

しかし、このアンケート調査の位置づけが曖昧なままの実施であった。生徒ができたこと等に関わる生徒評価と、そのための手立ての有効性等に関わる教職員評価とのズレから課題が見えてくるものだが、今後その視点で再度詳細に分析したい。

Q22-24 理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決するようにしている 【左上の図】  
 協同的な学びに関わる質問項目である。両学年ともに数学はよい傾向にあるが、他教科への広がり、さらに深い学びへつなげていくことが求められることがわかった。

Q25-27 授業では自分の意見をわかりやすく伝えるようにしている  
 表現力の育成に関わる項目である。概ね半数の生徒はわかりやすく伝えるよう心掛けているが、論理的に表現することができるような指導を要することがわかった。

Q28-30 目標や目的をもって授業に取り組むようにしている  
 生徒の主体的学びに関わる項目である。2年生の数学・英語は比較的よい傾向にあるが、全体的に改善を要することがわかった。

奈良教育大学の赤沢隼人准教授は、カリキュラム・マネジメントに基づいて、授業・学校改善を実施する時のポイントに、①「ゆさぶる」…問題意識を喚起し、仲間を増やす ②「しぼる」…欲張らず重点化する ③「みとおす」…授業や学校の目指す姿をイメージし、共有する ことをあげておられる。そして、はじめの一步として、まず「学校、子ども、地域の実態や現状（困りごと）を証拠（エビデンス）に基づいて正しくおさえているか」、さらに「実態や現状（困りごと）を踏まえて、”ここを何とかしたい”という課題意識を絞り込み、多くの教職員で共有する」ことが大事であるとされている（講義レジュメより）。

つまり、実態把握がないと課題は共有できないともいえる。このことは運営指導委員にも指摘された。本校の教育課程実践モデル事業では、1年次の具体的な生徒像を次のように設定している。「生徒同士でお互いに質問し合うような力を身につけ、対話的な学びによって理解が深まり、そうした良い意見を主体的に考え、活動できる力を備えた生徒」その設定理由は、次のような態度・力が不足しているのでは、と考えたからであった。

- 1 興味・関心をもち、主体的に学ぶ態度
- 2 基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、正確に読解する力
- 3 根拠を考察し、自分の考えを論理的に相手に伝える力
- 4 相手の考えを聞き、質問できる力
- 5 コミュニケーション能力、自他を尊重する心

しかし、それは必ずしも正確な実態把握に基づくものではなかったことは否めない。1学期末に行ったアンケート調査の結果を、あらためて実態把握の観点で見返すことで、その点を補完したい。

教育課程＝カリキュラムではない。教育課程は学校の教育計画であるが、カリキュラムは計画だけでなく、子どもが実際に学んだことまでも含むものである。そのためカリキュラムには、学校で「計画されたカリキュラム」、教室や授業で「実施されたカリキュラム」、「学ばれたカリキュラム」という位相がある。だからこそ、生徒が本当に何を学んだかの評価が、カリキュラムマネジメントにおいては重要となる。

12月に再度同じ質問項目でアンケート調査を実施する。これを、評価することの意義について考える契機とするとともに、次年度に向けた有効な課題設定へとつなげたい。

※裏面には、10月20日の研修会の事後アンケート集計を掲載しています。  
 詳細は「EAST通信 第5号」をご覧ください。

①研究授業(2年24R:竹田先生の英語授業)について

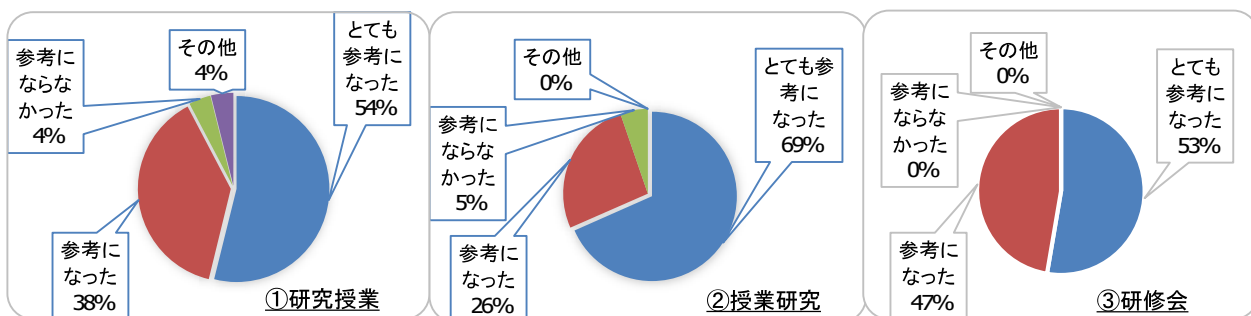
とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
14	10	1	1

②授業研究(授業振り返り・猫田運営指導委員の講評)について

とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
13	5	1	0

③研修会(グループワーク・森先生の講演)について

とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	その他
10	9	0	0



※主なコメント……紙面の都合等により抜粋しています。ご了承ください。

【本校内】

- 1) ペアによるディベートの方法や進め方などが参考になった。
- 2) 講評でアクティブラーニングの意義や授業において注意すべき点など具体的に説明していただいた。
- 3) 講評をもう少しじっくりと聞く時間があればよかったですと思いました。
- 4) 他の教科の先生からの意見が、自分の創造域を超えたものであり、いろいろな考え方があったと思った。
- 5) 時間の都合上難しいとは思いますが、研修会の時間がもう少し長くてもよかったです。とても有意義な時間でした。

【他校(高校)】

- 1) 挑戦してみたいという思いがあるものの、なかなかやり方がわからなく挑戦できていなかったディベートの具体的なやり方を参観することができ、大変参考になりました。
- 2) 各活動の意図や目的がよくわかって大変参考になりました。ありがとうございました。
- 3) うちの教科(英語)では、つつい生徒の学力にかんがみて、「教科書で教える」ことをあきらめがちになりますが、それを打ち破る授業でした。大変参考になりました。ありがとうございました。
- 4) 批判的思考を養いつつも、今後の英語授業をどのようなものとしていけばよいのかという方向性が確認できました。例えば、英語で質問されたものを英語で返せる能力を身につけさせたり、教科書で何ができるようにするのか、などです。

【大学等】

- 1) 最近の英語の授業の傾向が分かりましたので、良かったです。
- 2) 高校の授業現場で、どのような試行がなされているのかを知ることができたのは有意義でした。ややテンポの速い授業展開に、学生たちがうまくついていっているのに感心しました。
- 3) 研究授業の経緯についての丁寧な説明と、新入試改革の英語問題例をあげて、研究授業との比較をしながら講評された猫田運営指導委員の的確な指摘がとても参考になりました。
- 4) この研究授業が、数時間の授業の最終部分であることを知らず、資料のティーチングプランからは授業展開のアプローチがやや読みにくかったため、事前に、授業の簡単な説明があれば、もっと的確に参観できたかなと思いました。竹田先生お疲れ様でした。ありがとうございます。

※振り返り・まとめ

- ①研究授業について: 教育課程実践モデル事業の第2回目として英語科の竹田育子先生にディベートを通した質の高い授業展開をしていただき、批判的思考について考察するよい機会となった。
- ②授業研究について: 竹田先生の授業の振り返りと質疑応答、猫田英伸運営指導委員による講評やオンライン・オフラインといった話を通してより学びが深められた。
- ③研修会について: 竹田先生からの授業に関するポイントの説明を受け、グループ討議によって批判的思考力を養う上で大切にしたい3要素(証拠に基づく論理的な思考力・内省的思考・解決や判断を支える汎用的スキル)について、各教科で意見交換を行ってもらった。その後、森朋子運営指導委員長により、カリキュラム・マネジメントの観点から育てたい生徒像と学校目標とがリンクし、その目標を教師と生徒が共有することが肝要であることやPDCAサイクルの確立、エビデンスを基盤とした議論の重要性などについての講義があり、本モデル事業をさらに学校全体で推進していく必要性を再認識した。